

(別紙)

申 立 書 付 票

1 申立人について

(1) 申立人の生活状況

同居家族の氏名 年齢，職業，月収	申立人	大阪太郎	55歳	大山電気（株）	営業課長	月収45万円
	妻	大阪花子	52歳	主婦	無収入	
	長男	大阪一郎	25歳	神戸商事	月収25万円	
	長女	大阪陽子	21歳	大学3回生	アルバイト月収5万円	

(2) 申立人の主な経歴

生年月日 中学校以降の学歴	昭32.9.10 出生 昭和48年3月 谷町中学卒業 昭和55年3月 関西大学卒業 昭和51年3月大阪高校卒業
婚姻，子の出生， 転居等大きな出来 事を時系列で	昭和55年4月 大山電気（株）入社 昭和59年7月 妻花子と婚姻 大阪市城東区に転居 昭和61年9月 長男誕生 平成2年2月 長女誕生 平成5年3月 大阪府豊中市に一戸建を購入し転居 平成11年7月 交通事故による骨折で2か月入院

2 被相続人について

(1) 被相続人の主な経歴

出生年月日，場所	昭和22年6月10日 大阪府吹田市で出生
小学校からの学歴	昭和35年3月吹田市立吹田第1小学校卒業 昭和38年3月吹田市立吹田東中学校卒業 昭和41年3月府立吹田高校卒業 昭和41年4月関西大学文学部入学 昭和45年3月関西大学文学部卒業
職歴	昭和45年4月府立吹田北高校教諭 平成20年3月吹田西高校教頭で定年退職

3 特別縁故の内容・程度

- (1) 被相続人との関係（親族関係がある場合は続柄をお書き下さい。）

いとこ

- (2) 被相続人との生活関係

- ☐ 生計を同じくしていた（その時期、期間、生活費の分担状況）。
☒ 生計を同じくしていたとは言えない。

資料の添付 ☒ 有（資料番号 ）

- (3) 被相続人の療養看護について

- ☒ 被相続人の療養看護に努めた（療養の方法、場所、期間、程度、費用負担など）。
☐ 被相続人の療養看護に努めたとは言えない。

平成21年9月頃被相続人が体調を崩した際には、通院の際の送り迎えをしたり、入退院の手続きをとったりしました。入院中は、少なくとも週2回は見舞いに訪れ、被相続人を元気付けるとともに、身の回りの世話をしていました。また、二回の手術の際には、申立人が保証人となりました。

被相続人は、平成21年12月に退院し、平成23年6月に再入院するまでの間自宅で療養していましたが、その間、申立人あるいは申立人の妻が2日に1度は被相続人宅を訪れ、身の回りの世話をしていました。

平成23年6月に被相続人が再入院する前に、被相続人から被相続人名義の通帳、印鑑、カード等の管理を任せられ、入院代・治療費等はその中から支払っていました。その他の細かい雑費は、申立人が立て替えていました。

資料の添付 無・☒ 有（資料番号1～4，6）

(4) その他特別の縁故に当たる事情について

- ☐ ア 被相続人に対して金銭的な援助をした。
- ☒ イ 被相続人に対して精神的な援助をした。
- ☒ ウ ア、イ以外で被相続人に対して援助をした。

被相続人は、昭和 58 年に被相続人の母花子が死亡して以降は、最終住所地のマンションで一人で暮らしていた。

申立人は平成 5 年現住所地に転居しましたが、申立人の住所地からは車で 10 分ほどの距離と近所になったことから、一人暮らしの被相続人との交際がさらに密になりました。被相続人の父母の法事などにも協力していました。

特に被相続人が平成 20 年に退職して以降は、週に 1, 2 回は申立人宅を訪れ、夕食をともにするようになりました。申立人夫婦は、何かにつけ、被相続人の相談にのり、一緒に買い物に行ったり、旅行をすることもありました。

資料の添付 無・㊦ (資料番号 5, 6)

(5) 被相続人の死亡後に被相続人のために行ったことがあれば、その具体的な内容、それに費用が掛かっている場合は負担額をお書きください。

病院から死亡の連絡を受け、死亡届を提出し、死亡に伴う種々の手続を行いました。葬儀は申立人が喪主として執りおこないました。その費用 50 万円は申立人が支出しました。

資料の添付 無・㊦ (資料番号 7)

